

大阪新聞錦画第

長幼小月歌の青柳と三男兵之助

へ今年九七の小吉屋とあるが昨年の五月とす

初て小字屋小八門せりより日々の勉強怠らぬ

学登出を誘をよみてたよへ終生後の上等

とよへふ其父母が懇家の法事小連れあうと云

を一日の情の朋友の追抜ををみり九七終事親へ

其意小住せ家内のから出て連れあが兵助が

午時小降り書飯喰んとせし漬物の醤油

まじりもあお刺し表を通り醤油賣を呼合せ

一弁買ひて其男へ代料の母がわらわらと云ふ

と約それく喰ふり又学校出行し母

す帰り来り其座中書つるを見つりよと母へ持行

先せる文一曰

小字屋より土時小降り書飯を進む時不

醤油賣前を通りし是を止めて醤油

を買求め候三月二十日 青柳兵之助と云ふを



キヨリ  
年回の席へ出  
たれを一坐のめや  
らみふ文明のつ  
かたに子才氣を  
感ずぬとのあつ  
王々

文花堂記

梅元軒

子才氣